

# 第3学年 道徳学習指導案

男子 9名 女子 19名 計 28名  
指導者 峰 健 一 郎

- 1 主 題 名                    みんな友だち（2（3）友情・信頼，助け合い）
- 2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

「友情・信頼・助け合い」は、友情関係において基本とすべき精神を述べたものであり、友達との間に信頼と友情及び助け合いの精神をもった子供を育てようとする内容項目である。

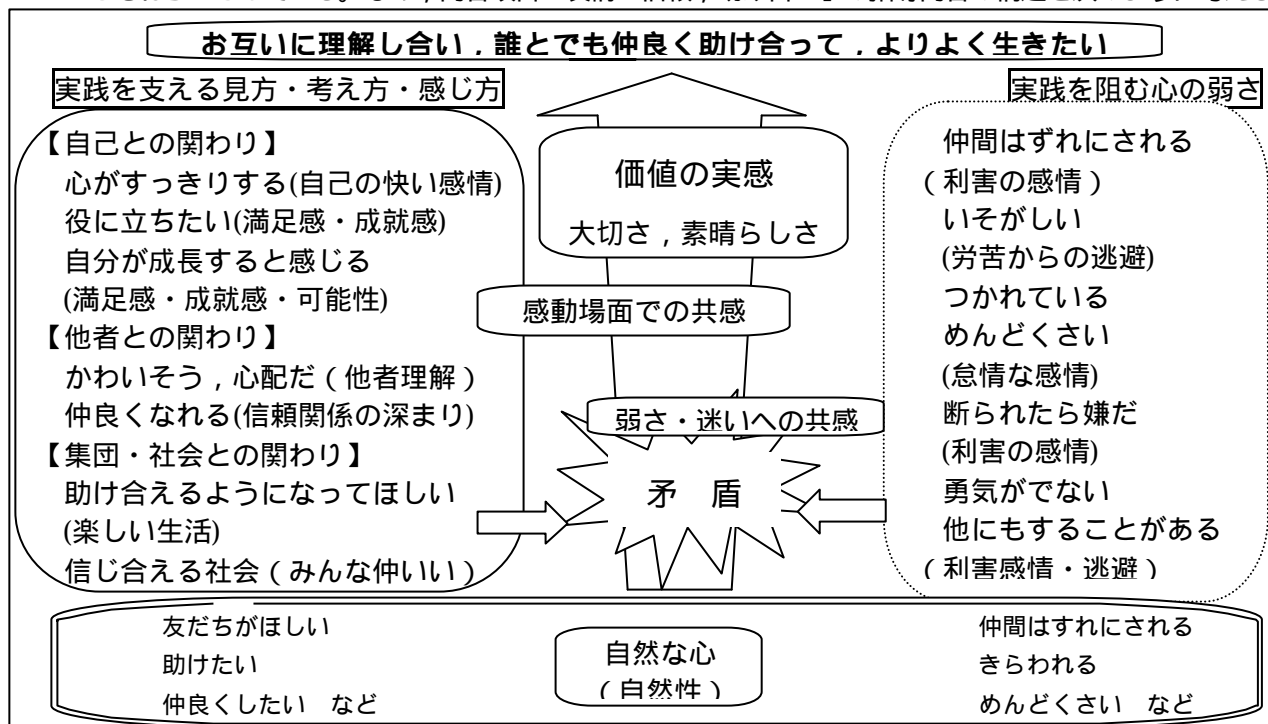
「友情・信頼，助け合い」に関する指導内容の系統は、以下の通りである。

低 学 年 友達と仲良くし 助け合う。	中 学 年 友達と互いに理解し，信頼し， 助け合う。	高 学 年 互いに信頼し，学び合って友情を深め， 男女仲良く協力し助け合う。
------------------------	----------------------------------	----------------------------------------------

友情・信頼，助け合いについて、この期の子供たちは、これまでに、身近にいる友達と仲良く活動し、助け合うことの大切さを理解し、努力している。しかし子供たちは、自分が楽しいからいいと考えたり、気の合う友達同士で仲間を作り他の仲間とはあまり遊びたくないと考えたりしてしまうことがある。このようなことから、誰とでも仲良くすることは、楽しく明るい生活につながることを理解させ、友達と互いによく理解し、信頼し、助け合っていこうとする態度を育てる必要がある。そこで、以下のような中学年における年間指導計画に沿って学習を進めてきた。

学年	主 題 名	こ れ ま で の 主 な 指 導 内 容
3年	わかり合える友	友達同士互いに理解し合い，助け合っていこうとする気持ちを育てる。
	<b>みんな友だち</b>	<b>誰とでも仲良くし，助け合おうとする心情を育てる。（本時）</b>
4年	みんなでいっしょに	友達の気持ちや立場を理解し，助け合っていこうとする心情を育てる。
	友達のために	友達は，互いに理解し合い，信頼し，助け合うものだという心情を育てる。

本主題では、仲間はずれの困った子供に対してどうすればいいか考える場面に生じる心情や心の変化を、自らと深く関係づけながら多面的に追究する活動を通して、「みんな友だち」ということの大切さ・すばらしさを感じさせることをねらいとしている。さらには、どんな友達でも仲良くすると自分、そして周囲も明るくなることから、「みんな友だち」の気持ちをこれからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。なお、内容項目「友情・信頼，助け合い」の指導内容の構造を次のように考える。



(2) 子供の実態（平成 16 年 10 月 26 日実施 調査人数 28 名）

本学級の子供たちの「友情・信頼・助け合い」に関わる経験や実践を阻む心の弱さ、実践を支える見方・考え方(意義・心構え)等についての認識は、以下の通りである。

〔表 1〕 三年生の友だちに対する実態

質問	肯定的回答	否定的回答
もっとともだちがほしいですか	はい・・・28人	いいえ・・・0人
このクラスは仲のよいクラスだと思いますか	はい・・・26人	いいえ・・・2人

〔表 2〕 友だちのよさを実感した経験：「友だちにどうされたらうれしいですか。」

経験場面	人	経験場面	人	経験場面	人
遊びに誘ってくれる時	9	分からないことを教えてくれる時	4	ほめられた時	2
困っているときに声をかけてくれる時	6	困っているとき助けられた時	3	なぐさめられた時	1
やさしくしてくれる時	4	手伝ってくれた時	2	発表を聞いてくれる時	1

〔表 3〕 友達に対して否定的な感情を持った場面と気持ち：「友だちにどうされたら、かなしいですか。または、いやですか。」

経験場面	人	その時の気持ち	人
いじめられた時	7	いやな気持ちになる	18
けんかした時	5	悲しい気持ちになる	6
文句を言われる時	3	分かってくれないと思う	2
じゃまされる時	3	心が沈む	1

〔表 4〕 困っている友達に対し、実践を阻む時の心の弱さのとその後の気持ち

心の弱さ	人	心の弱さ	人	その後の気持ち	人
いそがしい	7	遊びに夢中	7	助ければよかった	14
つかれている	5	どうすればいいかわからなかった	2	かわいそうだと思った	10
めんどくさい	4	嫌いな人、苦手な人だから	2	できなかった（後悔の気持ち）	2

〔表 5〕 困っている友だちを助ける価値観の認識

見方・考え方・感じ方（自由記述）	人	見方・考え方・感じ方（選択式）	人
かわいそうだと思ったり、心配したりした（相手の気持ちを考えた）	12	相手の気持ちを考える	24
心がすっきりする（満足感・成就感）	6	相手に感謝の気持ちをもつ	21
これでよかったと思った（達成感）	4	人のためにがんばろうという気持ちをもつ	19
仲良くしたい（他者関係の深まり）	4	これまでの自分を見つめ直す	18
		誰に対しても同じようにする（14項目中最下位）	9

本学級の子どもたちは、表 から分かるように、友達がほしいと願っていることや、クラスは仲がよいと思っている子どもが多いことから、友達に対する意識が高いことが分かる。また表 から、クラス全員が、遊びに誘ってくれる、困っているときに声をかけてくれる、優しくしてくれる、といったような場面で友達のよさを十分感じている。このように、友達に対する意識や友達のよさを感じている子供たちだが、友達関係において様々な問題点が見られる。まず表 から、子供たちが友達に対して「悲しい・いや」だと思った場面は、いじめられた時、けんかした時、文句をいわれる時などであった。そして、友達とのトラブルが、多くの子供にいやな気持ちや悲しい気持ちを生じさせ、その時のつらい気持ちを体験している。また、表 の友達に対し実践を阻む理由は、いそがしい、遊びに夢中、つかれているといった自己中心性から生じているようである。表 の困っている友だちを助けた価値観の認識については、自由記述の分で、相手の気持ちを考える、心がすっきりするなどの価値観を認識している。また、選択式の分では、「相手の気持ちを考える」「感謝の気持ちをもつ」など心の葛藤を乗り越える心構えは認識しているようである。しかし、選択式分の「誰に対しても同じようにする」ことに対する意識が低いことから、このことが友達関係についての大きな課題となっていると考える。

そこで、学校という集団生活の中で、様々な価値が絡み合う中で、「誰とでも仲良く助け合う」ことを理解できる資料「明るくなった友だち」を用いることが望ましいと考えた。

(3) 資料について（「明るくなった友だち」）

本資料は、主人公の千緒が仲間はずれに合い登校できなくなった同じクラスの子に対して、周囲の目を気にせず家まで迎えに行き友だちを助ける場面を通して、だれとでも仲良くし助け合う心を育てるように構成

されたものである。

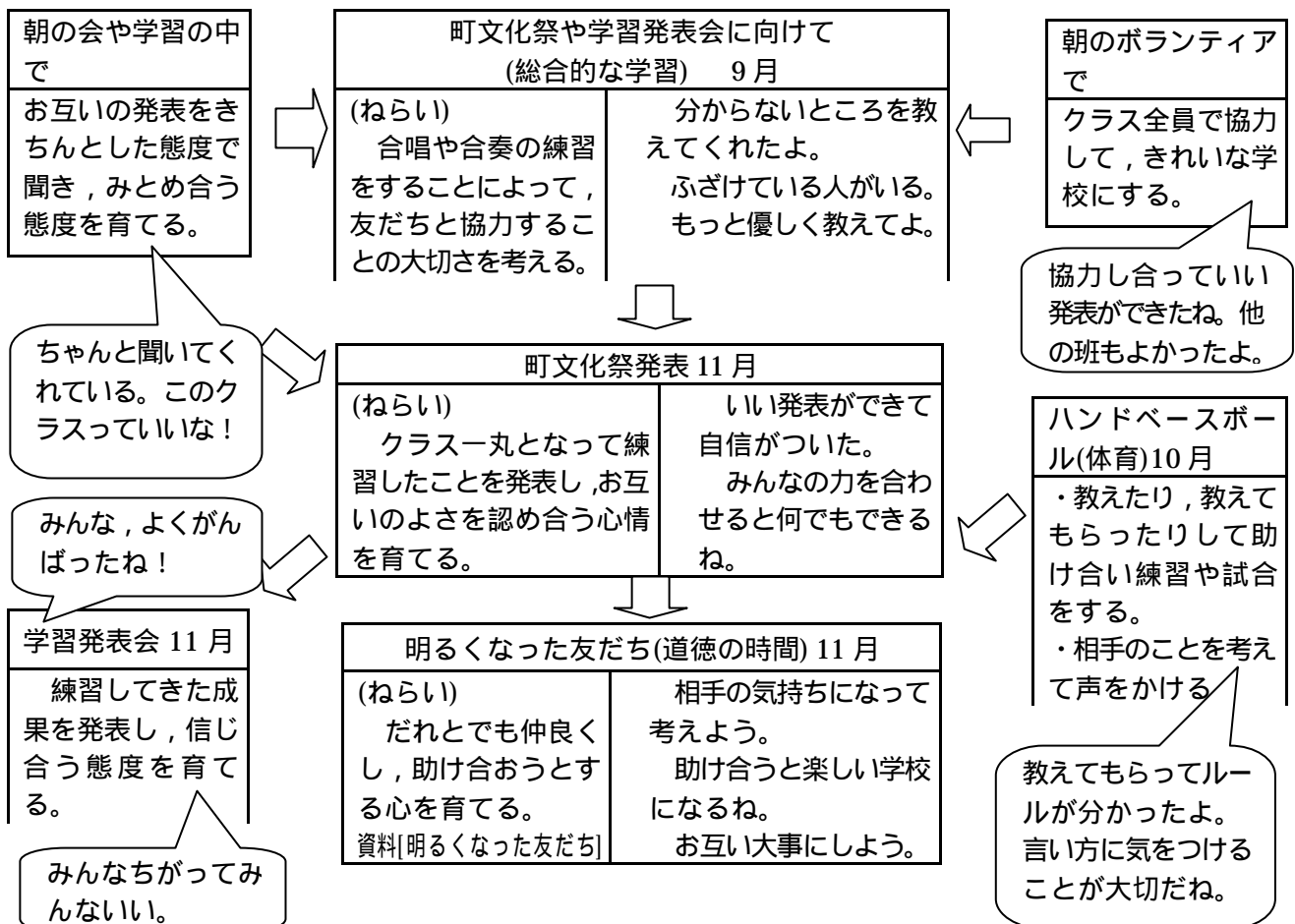
まず、千緒が仲間はずれの子を家まで迎えに行くか迷う場面で、自分も仲間はずれになるのではないかと不安になる気持ちが誰にでもあるということに十分共感できると考える。また、千緒の母が相手の苦しみを理解するように助言することで誰に対しても助けようとするということについて考えさせることで、相手の気持ちを考える大切さに気づかせる。そして、仲間はずれの子を助けることを通して、その子が明るくなり、クラスの間も助け合う、「なかよしクラス」になったよさ感じさせ、誰とでも仲良くし助け合おうとする心情について考えるよい機会となることが期待される。

資料分析

(主な場面)	(千緒の気持ち)	(支える見方・感じ方・考え方)
クラスの子が何日も休んだ。	・かわいそう ・どうしよう	何か手伝おう(思いやり) 正しいことしよう(誠実・明朗)
クラスの子について母と話し合う。	・わたしも仲間はずれになる。 ・いじめられたら怖い。	相手の気持ちを考えよう(友情) 思いきって迎えに行こう(勇気)
クラスの子を迎えに行く。	・助けてあげないと。 ・どうしたらいいかわからない	周りの目を気にしないぞ(節度) どうやったら笑うかな(思いやり)
みんな集まって仲間になった。	・迎えに行ってもよかった。 ・助けられてよかった。 ・いいことすると気持ちがいい	迎えに行ってもよかった(成就感) 相手の気持ちを考えることは大切だ(思いやり) みんなも分かってくれた(公德心)

(4) 主題に関する全体指導計画

体験活動を生かした指導を目指すために、次のような総合単元的な指導を展開した。



(5) 指導に当たって

「事前」の指導では、町文化祭や学習発表会に向けた練習等で、それぞれの活動にどのような気持ちでそして、どのような目標をもって取り組むか話し合い、ねらいとする価値の方向に沿って活動を展開するようにする。友達と協力するような活動場面の中で、クラスの友達の気持ちを考え励ましたことや助けたことまたは、逆にクラスの友達と協力できなかったことや思ったように活動が順調に進まなかった時の気持ちについて考えさせ、自分の気持ちを改めてじっくりと見つめさせたい。

本時の「きづく」「とらえる」段階では、事前の指導で共通体験した写真を見て活動中の出来事をふり返り、「仲がよいクラス」「協力や助け合うことができた」または「時にはできないことがあるな」と自分自身の気持ちを振り返らせることを通して、友達に対し誰とでも仲良くすることに問題意識を持たせる手だてとする。

「ふかめる」段階では、「明るくなった友だち」の資料を読み、一通りの話の流れを押さえ千緒の気持ちの変化に目を向けさせるようにする。まず、最初の仲間はずれの子を助けることは、自分も同じような境遇になるのではないかという不安から心の弱さがでてしまうことに共感させる。次に、母の一言がきっかけとなり仲間はずれの子を助けることを把握させる。さらに、ただ母の一言だけで仲間はずれの子を助けることになったことだけでなく、千緒がどのような気持ちに気づいたから助けるようになったかを焦点化させ中心的に追究させたい。そして、千緒のねばり強い努力の結果、千緒の周囲も集まり「助け合うクラス」になり、千緒がクラスのみならず「みんなもその子を守ってあげたかったんだ」「みんな同じだったんだ」と気づき、「みんな友だち」であるよさや素晴らしさを実感させたい。

「みつめる」段階では、これからの自分が大切にしていきたい気持ちや考えを書き、発表することで「みんな友だち」のよさを自覚させる。「たかめる」段階では、以前歌ったことのある「友達になるために」の歌詞を取り上げ、これからたくさんの友達をつくることに夢や希望を持って行動できるようにさせたい。中でも、友達の気持ちを考え勇気を出し接すると分かり合える素晴らしさやよさがあることを心情的に理解させたい。また、「自分もこうしたいな」と、思いを発展させ、未来に向かう「新しい自分」をつくりあげていく思いを込めさせたい。

3 本時

(1) ねらい

ア 友達と仲良くし、助け合うことがお互いの信じ合えるようになる友情のあり方・素晴らしさを資料や自分たちの体験の記録をもとに自分自身の生活と結びつけて理解し実感することができる。

イ 資料や体験した心の動きの記録を通して、周囲を助けることができたことや素晴らしさ、また自分自身の心に足りなかったところを見つめ、よりよい自分について考えることができる。

ウ 「友情・信頼・助け合い」に関わる資料を通して、周囲の目を気にするため正しいと思ったことができない自己中心性を自覚した上で、困っている友だちを助ける自分にあこがれをもつことができる。

(2) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の働きかけ（ 評価 ）
きづく・とらえる	1 友達によさや助け合い・協力について考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>みんな楽しそう</li> <li>できない時もある</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin: 5px 0;">だれとでもなかよく</div>	5 (分)	友達と楽しく活動している写真や協力している写真，アンケート等を活用しながら，友達によさや分かっても仲良くできない時もあることを意識させる。 友達と仲良くできないこともあることに問題意識を持たせる。
	2 資料「明るくなった友だち」を読んで友情・信頼・助け合いについて話し合う。 (1) 千緒やクラスの子の言動や心情について感想を発表する。 (2) お母さんの助言に，いやだと断った千緒の気持ちについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>仲間はずれになりたくない。</li> <li>いじめられるかも。</li> <li>どうしてわたしが。</li> </ul> (3) むかえに行く決心をした千緒の気持ちを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>かわいそうだ。</li> <li>助けないと。</li> <li>友だちだから大事にしないと</li> </ul> (4) 明るくなった女の子と，仲良く遊ぶみんなの様子を見た千緒の思いを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>なかよくなってよかった。</li> <li>みんななかまになってうれしい。</li> <li>みんなもまもってあげたかった。</li> <li>自分からできなかっただけ。</li> <li>みんな同じだった。</li> </ul>	30	資料を共感的に読みとらせるために，自分自身の学校生活にもよくありがちなことであることを意識させる。 発表をもとに場面を焦点化させる。 いやと断った千緒の気持ちの弱さに共感させる。 助けるか自分を守るか二つの気持ちがあり，どちらを選ぶか迷い葛藤する気持ちがあることを理解させる。 心の弱さを乗り越えるきっかけは何で，どういう気持ちの大切さに気づいたからかを追究させる。 心の弱さを乗り越えた気持ちを考えることができたか。（ワークシート，発表） 千緒の周囲の様子に目を向けさせ，友だちの行動の様子に焦点化させることで，みんなが仲間になり行動するよさを味わわせる。 クラスの子のために心の弱さを乗り越え，得ることのできたよさや素晴らしさを実感させ，みんな「守ってあげたい」気持ちを持っていることのよさにあこがれをもたせる。
ふかめる	3 これまでの生活をふり返り資料の感想を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の気持ちを考えて優しくすることは，大切だな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin: 5px 0;">みんな友達っていいな</div>	5	資料から得た相手の気持ちを考えて優しく行動することのよさを十分に感じさせ，価値の実感を高めさせるようにする。 自分なりに友だちとの関係について考えることができたか。（ワークシート，発表）
	4 「友達になるために」の歌詞を読む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>この歌大好きだよ。</li> <li>友達にどんどん出会いたいな。</li> <li>分かり合いたいね。</li> </ul>	5	歌「友達になるために」を提示し，歌詞を音読させることで，児童が感じたことを発表させ，歌詞が本時の授業と深く関係があることを感じさせる。 勇気を出して行動すると友達と分かり合えるよさを十分味わわせる。
みつめる・たかめる			

(3) 評価について

- 千緒と周りの友だちの気持ちの弱さに十分共感させ，友情や信頼，助け合いの大切さのよさを理解できたか。（資料への共感）
- 自分自信の生活をふり返り，過去の自分と重ね合わせながら友情や信頼，助け合いの大切さや素晴らしさを重ね合わせて考えることができたか。（価値の理解）
- 友情・信頼・助け合いについて，友達の立場になって考え，優しくしていこうとする自分にあこがれをもつことができたか。（将来の自分への希望）